

国立国語研究所学術情報リポジトリ

プロジェクトの概要

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002402

プロジェクトの概要

1 プロジェクトの目的

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして2009年にスタートした。プロジェクトの目的は以下のとおりである。

グローバル化が進む中、世界中の少数言語が消滅の危機に瀕している。2009年2月のユネスコの発表によると、日本語方言の中では、沖縄県のほぼ全域の方言、鹿児島県の奄美方言、東京都の八丈方言が危険な状態にあるとされている。これらの危機方言は、他の方言ではすでに失われてしまった古代日本語の特徴や、他の方言とは異なる言語システムを有している場合が多く、一地域の方言研究だけでなく、歴史言語学、一般言語学の面でも高い価値を持っている。また、これらの方言では、小さな集落ごとに方言が違っている場合が多く、バリエーションがどのように形成されたか、という点でも注目される。

本プロジェクトでは、フィールドワークに実績を持つ全国の研究者を組織して、これら危機方言の調査を行い、その特徴を明らかにすると同時に、言語の多様性形成のプロセスや言語の一般特性の解明にあたる。また、方言を映像や音声で記録・保存し、それらを一般公開することにより、危機方言の記録・保存・普及を行う。

(国立国語研究所ホームページより)

2 研究方法

消滅危機方言の調査は緊急を要する。そのため、フィールド調査に実績を持つ国内外の研究者を組織化し、調査研究を効率的に進める必要がある。また、質の高いデータを残すために、これまで、必ずしも統一的でなかった方言（言語）の調査方法や記述方法に統一性を持たせる必要がある。さらに、将来の方言（言語）研究を担う若手研究者の育成も必要である。以上を踏まえて、本プロジェクトでは次の2種類の調査をベースとして研究を進めている。

- (1) 共同研究者が各自のフィールドで行う各地点調査研究
- (2) 共同研究者が一同に会して行う合同調査研究

(1) はそれぞれの共同研究者がそれぞれのフィールドで行う調査研究で、共同研究者はその成果をプロジェクトの共同研究発表会で発表し、自分の調査研究を発展させるきっかけとしている（共同研究発表会では、若手研究者の研究を支援するために、共同研究者以外の若手研究者が発表を行うこともある）。

(2) は調査地点を定め、その地点の音声・アクセント・文法・基礎語彙・談話等を総合的に記述する調査である。この調査には、共同研究者だけでなくポスドク、学振特別研究員、大学院生といった若手研究者も参加し、参加者が共同で調査・データ整理・報告書の作成を行っている。

これまで、

鹿児島県喜界島方言調査（2010年9月）、沖縄県宮古方言調査（2011年9月）、
東京都八丈方言調査（2012年9月）、鹿児島県与論方言・沖永良部方言調査（2012年12月）
の4回の調査を行った。

3 共同研究者

本プロジェクトの構成員は、以下のとおりである（2013年10月1日現在）。

研究代表者：木部暢子（国立国語研究所）

共同研究員：五十嵐陽介（広島大学大学院）、井上文子（国立国語研究所）、ウエイン・ローレンス（オークランド大学）、上野善道（国立国語研究所客員教授）、大西拓一郎（国立国語研究所）、荻野千砂子（大分大学）、金田章宏（千葉大学）、狩俣繁久（琉球大学/国立国語研究所客員）、久保智之（九州大学）、窪菌晴夫（国立国語研究所）、熊谷康雄（国立国語研究所）、クリス・デイビス（琉球大学）、小林隆（東北大学大学院）、重野裕美（広島経済大学）、下地賀代子（沖縄国際大学）、下地理則（九州大学）、田窪行則（京都大学/国立国語研究所客員教授）、竹田晃子（国立国語研究所）、ダニエル・ロング（首都大学東京）、トマ・ペラール（フランス国立科学研究所）、中島由美（一橋大学）、仲原穰（琉球大学）、西岡敏（沖縄国際大学）、新田哲夫（金沢大学）、日高水穂（関西大学）、ブガエワ・アンナ（国立国語研究所）、又吉里美（岡山大学）、町博光（広島大学大学院）、松浦年男（北星学園大学）、松本泰丈（別府大学）、松森晶子（日本女子大学）、三井はるみ（国立国語研究所）（五十音順）

プロジェクト研究員：小川晋史（プロジェクトPD）、乙武 香里（プロジェクトPD）、三樹 陽介（プロジェクト非常勤研究員）